

## ▼ セクレパン [注] &lt;製造中止&gt;

【重要度】<製造中止> 【一般製剤名】セクレチン製剤 secretin 【分類】胃・十二指腸潰瘍、上部消化管出血治療剤、膵疾患診断薬

【単位】50 セクレチン単位/管

【用法】胃潰瘍、十二指腸潰瘍：通常1～2回/日、1回1管を筋注。上部消化管出血：2～4回/日、1回1～2管を静注（緩徐に）または点滴静注。膵外分泌機能検査：1回1～2管を静注（緩徐に）。

【透析患者への投与方法】透析患者の投与方法に言及した文献はなく、ヒトでの動態に関する報告もほとんどないため不明（5）

【保存期腎不全患者への投与方法】腎不全患者の投与方法に言及した文献はなく、ヒトでの動態に関する報告もほとんどないため不明（5）

【特徴】本剤は消化管ホルモンの1つで、直接壁細胞、ガストリン細胞に作用して酸分泌及びガストリンの血中放出を抑制する。また、胃幽門前庭部の運動を抑制し、さらに膵液及び胆汁中への重炭酸分泌を促進し、胃酸を中和する。本剤はタンパク質製剤であるので、投与前にブリックテストを行う必要がある

【主な副作用・毒性】発疹、AST・ALT上昇、血清アミラーゼの上昇、尿中アミラーゼの上昇など

【代謝】セクレチンは腎でも代謝を受ける（Gibson TP: Am J Kidney Dis 8: 7-17, 1986）

【排泄】セクレチンの分子量は約3000であり、これが血中でフリーの状態であれば糸球体でろ過される

【MW】3055.45

【透析性】分子量が大きいため、透析で除去されにくいと思われる（5）

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない

【最大効果発現時間】約10min（十二指腸潰瘍患者）

【効果持続時間】3hr以上（十二指腸潰瘍患者）

【備考】本剤の投与を開始するにあたっては、ブリックテストを行うこと。総胆管閉塞、膵管閉塞、急性膵炎、急性肝炎のある患者には禁忌。原発性副甲状腺機能亢進症の患者に用いると低血糖が現れることがある

【更新日】20080927

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。